

【ヨハネの黙示録第6章】

「殉教者」

2月5日(水)に昼は西坂の丘で、夜は長崎平和会館で殉教聖会が持たれます。今日の6章には殉教者について述べられてあります。共に殉教、殉教者について考えてみましょう。殉教者とは辞書によると「自らの信仰のため身命を犠牲にする者」のことを言いますが、イエス・キリストは神のみ心を行うために、全人類の罪をその身に負うて十字架上で死んでくださいました。まさに殉教者の第1人者です。

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」(マルコ8:34)のみ言葉の通り26聖人は、イエス・キリストのみ足跡を辿って主を愛するゆえに、命をかけて主に従ってゆきました。

この章では次々に封印が解かれ、白い馬、赤い馬、黒い馬、青い馬が呼ばれて出てきます。戦争、飢餓、死、疫病、地震そして考えられないような災難が起こり、誰も耐えられない御怒りの日が来ること。しかしその前にリバイバルが起こり、聖霊の素晴らしい働きが起こり、多くの魂が救われてきます。(ヨエル2:23、28～使徒2:17～)ヨエルの預言の成就是ペンテコステの時に前の雨が降り一部起こりましたが、世の終わりにもう一度後の雨が降るといっています。大きな風のひびきと共に、聖霊様の大きな働きが起こり、多くの魂が救いに導かれるでしょう。(勝利の白い馬)しかし、聖霊様の働きがおこればおこるほど確実に迫害、殉教がおこってきます。

第5の封印が解かれた時、祭壇の下にいる殉教者が、「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」と叫んでいます。彼らは神のことばと自分たちが立てた証しのために殺されたのです。そして一人一人に白い衣が与えられました。殉教者の数が満ちるまでもうしばらくの間休んでいなさいと言い渡されています。

26聖人のリーダーであるペテロ・バプチスタ神父はイスパニア(スペイン)出身でした。殉教の旅の中で最もつらく険しかった俵坂峠を越えた時、眼下に広がる美しい大村湾を見ながら、母国のことを思い出したのではなく「この日本に迫害がますますひどくなり、宣教はどうになってしまうのだろう！信仰を持ち続けられるのだろうか？」と涙したのです。それを見ていた心無い役人が、死ぬのが怖くて泣いていると誤解しているのを知って、急いで涙をとめたと言うのです。(「殉教p.68」「日本キリスト教史上」p.153 み声新聞766号論説など)

殉教者はリバイバルの種と言われていますが(み声新聞766号論説より)今までも日本に30～100万人の殉教者がいると言われてはいますが、まだリバイバルは見えていません。彼らの殉教の尊い血と祈りを神様は覚えられています。彼らの涙の祈りの答えがもう間もなくやって来るでしょう。(患難期前半)その為に私達が召しだされていることを覚えてください。日々起こる事柄は、その為の訓練と備えのためであることを信仰を持って捉えましょう。ますます感謝と賛美を持って喜びつつ収穫の時に備えて参りましょう。



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2014.2.2 No.774

新年のみ言葉

いつも主にあって喜びに満たされなさい。

もう一度言います。喜びなさい。

ピリピ書4章4節

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ3:16



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。

